

物部川清流保全推進協議会部会
「こどもたちへの環境学習を進めるWG」要旨(第4回)

- 日 時： 平成23年8月18日 14:00～16:00
- 場 所： 香南市役所2階会議室 (香南市野市町西野2706)

●内 容：

1. 事務局より、平成23年度物部川清流保全推進協議会総会及び前回(3回目)の議事録要旨の説明。

2. 香南市立野市小学校 田中校長より「環境学習の企画づくりに向けた学校現場からのアドバイス」を受ける。

- ・ 野市小学校の環境学習は、前校長の実践と、過去に環境省の事業を実施したことが大きな素地となっている。
- ・ 環境を人・もの・ことで幅広く捉え、子どもたち自身が追及したいことをテーマとして環境学習に取り組んでいる。
- ・ 毎年6月開催の環境フェスティバル(26講座実施)に来る講師やスタッフとの出逢いが、子どもたちの一年間の取組を探すきっかけにもなっている。どの講座にも必ず「体験」を組み込んでもらうようお願いしていて、発達段階に応じた振り分けはするものの、子どもは自分の興味のある講座を受講できるようにしている。
- ・ 新しい指導要領になって、総合学習に使える時間は年間70時間(週2時間)になった。限られた時間のなかで環境学習を展開している。
- ・ 校外への移動手段は、香南市のバスを使っている。移動手段が保障されていると環境学習はやり易い。移動が徒歩に限定されると、往復の移動だけで1～2時間を費やしてしまう。
- ・ 教科と関わりがある事柄は学校としても使いやすい。例えば3年社会では香南市の自然や産業を学び、4年社会ではゴミのことや水のことを学び、5年理科では川の流れを学ぶ。
- ・ ひとつひとつの体験を単なる経験で終わらせないという、教師側の持っていく方も重要。鮎の放流から山へと興味がつながり、やがて海を見て山からの流木やゴミの現状を知ること、山、川、海のつながりを知ることでもある。教員がねらいを持って、事前に講師と十分な話し合いを持つことも大事。
- ・ 野市小学校では子どもたちの興味に応じて講師を探しているので、実施時期(シーズン)や条件の書かれたメニュー表があれば環境学習に活用できる。
- ・ 情報が欲しい時期として、年間計画に組み入れるためには前年度末には情報が欲しい。各学級担任は5月くらいから授業の展開を考え始めるので4月ごろに情報があればよい。
- ・ 子どもたちは環境学習を通じて人との関わりについて身をもって感じていて、そのことが血となり肉となって周囲への感謝の気持ちが育っている。身に着けてきたことを意識化して行動化していくことは、子どもたち自身の生き方にも大きく関わってきている。

3. このWGにおける環境学習の企画づくりと、WG参加団体が連携して行うモデルプログラムの実現について、意見交換を行った。

- ・ 小学生向けの水生生物調査を実施しているが、参加した子どもたちにもう一步踏み込んで考えてもらうところの達成感に欠けるというか、イベントになってしまっているというのが現状。
- ・ 学校では川で遊ぶことを禁じているが、確かに川は怖いところだが、楽しいところでもある。いまの親世代は川を知らないで、子どもにも川の怖さや楽しさを教えることができなくなっている。

- ・ 役所のプログラムではイベントで終わってしまうので、地元の里山や川を案内できる地域の人材を集めた人材バンク的なものがあればいい。
- ・ 子どもに対するプログラムも必要だし、大人に対するプログラムも必要。もっと言えば教員向けプログラムも必要ではないか。地域の人々との関係が築ければ、地域の資源は有効に活用できる。
- ・ 学校現場には多忙感があるので、教員向けプログラムへの参加は期待できないのではないか。
- ・ 環境学習に新たに取り組む学校を開拓するには、まずは学校へ向けたアクションを起こさなければいけない。
- ・ 学校が環境学習を実施するときのバス代に充てることができるお金を、行政で工面できないか。

まとめ

- ・ **学校で環境学習を推進するためには、指導要領とのからみ、移動手段の問題、学校現場にある多忙感 などの課題があることがわかった。**

↓

- ◆ **まずはWGで、環境学習プログラムをとりまとめてメニューを完成させる。(項目及び内容の充実を図る。)**
- ◆ **実施校の決定に向けて、どのように実現していくかはWGで継続検討とする。**